日仏交流１５０周年記念―トリコロールコレクション祭に参加して

畑田　美智子

ワインのアートラベルをあなたのガラス作品の意匠で製作させてほしいとの話があったとき、はじめは余り乗気ではなく、少しとまどいがあった。そのうちに、ワインのアートラベルはどのような意味があるのか、どういう風に作られるのか、どういう歴史を持っているのか少しずつ分かって来ると、ともかく協力する気になった。このワインのアートラベルは限定特別醸造された完全オリジナルワインのために作られるという。どのような意匠が適当か、散々迷ったあげくピラミット型シェードの大型ランプ『紅葉三昧』を選んだ。初めての経験なので、どのような効果があるのか分からず、決めるのに時間がかかったが、少し和のテイストの感じられる東山の紅葉風景、月下に映える紅葉を選ぶことにしたわけである。

アート・ワインラベルに採用されることは光栄なことで、特に世界的にも名高い“ボルドーワインのラベルになる”ということは、一流アーティストの証でもあるのですと言われ、是非披露のための試飲会に参加するようにと多くの人から勧められたので、パリのベルシー美術館に行ってみたいという願望が私をフランス旅行へと駆り立てた。とにかくその特別のワインを試飲してみたい、テイスターではないので、味わい深いビンテージだといわれてもピンと来ないかも知れないが。

かつて、世界のワイン街として栄えたフランス・パリのベルシー地区、そこは今も当時の面影を残した風景があちこちにあり、昔のワイン倉庫が改装されて、ショッピングモールやレトロなレストランに姿を変えて、人びとの楽しみの場となっている。ベルシー美術館はその一画にあり、フランスの歴史的建造物の指定を受けて、特別な日しか開館されない、地元では格式の高い美術館といわれている。そこには、100 年前のパリの良き時代の回転木馬をはじめ、いろいろな大道芸的記念物が蒐集されており、お祭り的な華やかな雰囲気が醸し出されている。その奥の中庭でトリコロールコレクション祭が開催された。９月２４日世界遺産の日

福島先生と

にアートラベルの披露と試飲会があり、２００本あまりのビンテージワインが振る舞われた。その後、ベルシー美術館にアートラベルが永久保存された。日本からは大阪市立大学の文学部仏文専攻の福島先生がたまたま学生を連れて研修旅行に来ておられたので、ご案内するとさっそく参加していただけた。ワイン通のワイン好き、このお祭りにぴったりのゲストであった。

私のワインアートラベルも、とても得意気に並んでいた。ビンテージなワインに日本からのアートラベルということで、集まった人々も浮き浮きとその場の雰囲気に酔い、音楽やダンスを楽しみ、子供たちも一緒に踊り出していた。陽気でにぎやかな祭りは、ほろ酔い気分の人達とともに 200 本の振る舞いワインが空になるまで続けられた。

代表者の方々と乾杯

ファヴァン館長にラベルの説明

参加者にラベルを披露

ワインのアートラベルを見る参加者たち